姉妹町村・宜野座村で文化交流
立川神楽保存会が伝統の舞を披露

稲本隆壽内子町長や町内の伝統文化継承団体会員など17人が10月31日～11月2日、沖縄県宜野座村を訪問しました。

同村とは昭和48年、旧五十崎町との間に姉妹町村協定を締結。以来、小・中学生の相互訪問事業などを通して交流を深めてきました。近年はさらに多様な分野で交流を活性化させ、互いの地域振興につなげようと、文化や産業面でも事業を展開。昨年度の「第3回内子町伝統芸能まつり」では、同村の伝統芸能「京太郎」（県指定文化財）などが披露されました。

今回は「第17回宜野座村文化祭」に立川神楽保存会が出演。立川神楽（町指定文化財）の演目の中から「四殿王の舞」を演じました。沖縄県には神楽がなく、初めて見た人が多かったこともあり、会場は大いに盛り上がっていました。

1_立川神楽保存会の演技　2_當眞敦村長の歓迎あいさつ　3_琉球舞踊などが披露された

全国障害者スポーツ大会
瀧本さんが2種目で銀メダル

「第15回全国障害者スポーツ大会」が10月24～26日、和歌山県で開かれ、フライングディスク競技に出場した瀧本真壮さんが、2種目で2位に輝きました。

瀧本さんが出場したのは、円盤を投げる正確さを競うアキュラシーと距離を競うディスタンス。アキュラシーでは10回の投てきの内、9回が成功、ディスタンスでは45メートルの好成績でした。瀧本さんは「前回よりもいい結果で良かった。2年後の愛媛の大会では金メダルを取りたい」と喜びを語りました。

2つの銀メダルを首に、取材に応える瀧本さん

稲田繁副町長（左から2人目）と受賞の報告に来庁した関係者の皆さん

生産者が一丸となって農林業の振興
2団体に愛媛農林水産賞

愛媛県内の農林水産業の振興に貢献した団体や個人を顕彰する「第24回愛媛農林水産賞」の贈呈式が10月27日、愛媛新聞社で行われ、内子町から「からり直売所出荷者運営協議会」（稲田由美子会長）と「内子町女性林研グループ・やまもんも」（岡田悦子会長）が優秀賞を受賞しました。

審査では、からりが考えて売る農業の展開、やまもんもは草木染めやシイタケの料理教室の取り組み、そして両団体とも女性の視点で地域に貢献する活動などが高く評価されました。

交通事故多発中！
安全運転を願い「赤色警光灯」を寄贈

点灯された赤色警光灯の前で握手を交わす代表者

愛媛県自動車整備振興会と大洲自動車整備連合会は11月11日、内子交通安全協会へ「散光式赤色警光灯」を寄贈しました。

設置場所の国道56号線・城廻地区にはカーブが続く区間があり、事故が多発。8月30日には死亡事故も発生しました。

また今年は11月23日までに61件（前年比＋32件）の交通事故が発生し、その内3件が死亡事故です。内子交通安全協会の才野俊夫副会長は「警光灯の設置を機に、ドライバーの皆さんには一層安全運転を心掛けてほしい」と呼び掛けました。

内子座前に新たなシンボル
ライオンズクラブが常夜灯を贈呈

内子ライオンズクラブの創立50周年と、台湾の楊梅ライオンズクラブとの姉妹提携34周年を記念して、両ライオンズクラブから内子町に、内子座常夜灯が贈呈されました。創立50周年の記念式典があった11月22日、内子座前の小公園で、建立された常夜灯の除幕式が行われました。

式では木下勝彰会長が「常夜灯は、花崗岩の台座や文字など、全て町内の業者や職人が手掛けた作品。内子座への道しるべ、シンボルとして親しんでもらえれば」とあいさつしました。

稲本隆壽町長、両ライオンズクラブのメンバーらが除幕した

適切な地域課題の対応に期待
愛媛大学との連携協力協定調印式

活力ある個性豊かな地域社会を目指すため、内子町と愛媛大学が連携協力協定を締結し11月24日、内子町役場で調印式を行いました。愛媛大学の大橋裕一学長と稲本隆壽内子町が出席し、協定書に調印しました。

愛媛大学と内子町は、これまでにも医療福祉の向上や伝統芸能の継承などで連携を図っています。今回の協力協定は、互いの連携を強化して内子町の観光振興や農業の活性化策などの地域の課題に取り組むことが期待されます。また愛媛大学は、28年度に設置する「社会共創学部」の学生が実践的な知識を学ぶ場としても期待しています。

大橋学長は「新しい学部では、地域課題を解決する人材を育てたい。その実習先として内子町は魅力的な町。一層連携を深めたい」とあいさつ。稲本町長は「学生と関わることで町の人が元気になり、誇りと自信を持つきっかけになれば」と応えました。

固い握手を交わす稲本町長（左）と大橋学長